

## 勉強嫌いを克服する夏

茗溪塾塾長 宇野 雅春

「勉強は辛くて嫌なこと」というイメージがかなり定着している気がします。学校に満足に通えず労働に駆り出されるような発展途上の国の子供達にとっては、学校は天国、「学ぶ」という事は、非常に贅沢なことなのに、経済発展を遂げた後の特に恵まれた都会の子供達にとっては、「勉強」はやりたくないNO1に挙げられるようです。しかし一方で勉強大好きな生徒も少なくありません。

勉強が好きな子供は、「考えること」や「知識を得ること」に大きな喜びを感じる子供達です。2020年を境に変化しつつある「教育改革」の根幹は、学ぶことと生きることを一つに重ね合わせた方針だと思います。ただ知識を詰め込むだけでなく「自分で考え自分で解決していく」力をつけることがその主眼です。英語もテストをクリアするだけの道具ではなく、実際にコミュニケーションの道具として獲得していくスタイルになっています。多くの国の人々と深く理解しあえるための共通言語としての「英語」の学び方は今までとは少し違います。

少しでも点数を取らせようと躍起になって教え込む…叱責が飛び交い…生徒はやる気がでないの一向に覚えられない…あの手この手で生徒を追い込んで何とか知識を定着させようとするが、生徒はうんざり…「なんでできないの？」と責められて、自分でも無理とってしまいます。当然やる気は出ません。悪魔の循環という恐ろしい罠にはまってしまうという事です。

できない→叱責→やる気が出ない→だからできない→叱責…この循環はできない生徒の自信を奪い「能力がない」と本人も思い込んでしまいます。

どんな生徒でも必ず伸びる芽を持っています。カギは自分で取組む勉強に、いつ気づくのかという事です。私の勝手な推測かもしれませんが、勉強ができないパターンは①理解力がある生徒でもインプットの考えがない（授業ではわかっているが練習に時間を割かないためすぐ忘れる）②「内容を読み取る」習慣がないため全く内容を把握していない③集中して考える習慣がない（関心が一つに向かわず周りが気になる）④「作業」（頭を使っていない）を勉強と勘違いしているなどなど…ここに気づかせることで時間をたくさん使わなくても学習効果が作れるはずと考えています。簡単なことではないのですが可能と考えています。ここでは長い夏休みがチャンスです。夏期講習では「自分で取組む」ためのコーチングを準備中です。「自分で取組むこと」で、勉強に向かないと思っている生徒は自信を取り戻し、優秀な生徒はさらに上も目指すこととなります。教育改革の目指す方向はひたすら大変というだけでなく「学ぶ」喜びにつながるものと思っています。